

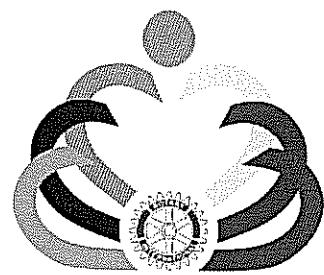
国際ロータリー第2770地区

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA MID-TOWN

Weekly Report

例会日 毎週火曜日 12:30~1:30
 例会場 山下工務店 大袋 GL2階
 事務局 〒343-0034 越谷市大竹686-3
 TEL 048-971-5320
 FAX 048-971-5370
 創立 平成2年5月22日

会長 仲文成
 幹事 山崎晶弘
 広報委員長 菊地貴光



ここの中を見つめよう 博愛を広げるために

第1042回例会会報

- ・例会月日 平成24年3月13日(火)
- ・点鐘時間 12時30分
- ・例会場名 山下工務店 大袋GL2階
- ・齊唱RCソング 「奉仕の理想」
- ・司会者名 太田洋寿SAA
- ・発行月日 平成24年4月3日(火)

次月・次週インフォメーション

- /3 通常例会
- /10 通常例会
- /17 地区協議会

会長挨拶

仲文成会長



皆さん、こんにちは。外は冷たい風が吹いて寒くなっています。風邪などひかないよう十分お気をつけください。

挨拶の前にお願いと報告があります。越谷駅前に設置する時計台の寄贈については以前にお話をしましたが、先週の幹事会

幹事会で正式な寄付の依頼がありました。誠に恐縮ではございますが、皆様には1人1万円の寄付をお願いすることになります。何卒ご協力のほどよろしくお願ひ致します。もう一点、合同例会時(15日)の通訳を文教大学の留学生にお願いすることになりましたのでご報告致します。

本日はある本の中で見つけた興味深い記事(「貢献」を本気で考える企業だけが生き残る)をご紹介します。

「ますます進行する不況で経営者の本気が試されている」

「景気が一律に回復することはありません。当面、右肩下がりの経済が続くと考えなければなりません。その不況下で、どうすれば会社を存続させられるのか。ひと言でいうと「経営者の本気が問い直されている時代」と認識して、お客様への貢献を実践していくしかありません。

これまで会社は多かれ少なかれ、売上や利益などの「数字」を目標に努力してきました。言い換えると、いかに儲けるか、を考えて「数字」を達成しようとしてきたのです。金儲けの発想でビジネスを考えることは、すでに通用しません。今述べている事は、結果として儲けを出し、会社を存続させ躍進させるために、最重点課題は何かということなのです。

経営者の「本気」が試されているということは、そのビジネスに自分の生涯を賭けるということです。お客様にどのような貢献ができるかを真剣に考え、それを本気になって取り組むことが経営者に求められているということなのです。会社の理念、方針は、すべてお客様に貢献する内容

であり、お客様の抱えている問題をいかに解決するかが明確であるべきです。

住宅会社を例に取ってみましょう。具体的に言えば、まず展示場はお客様の買いやさに無頓着すぎたことはなかったか。展示場には大きな高級住宅ばかりが並んでいます。多数派のお客様にとって、とても手が出る価格ではありません。もっとお客様の生活実感に訴えるモデルハウスを建て、パリアフリーやエコロジーなどのテーマを備えた家として提案しなければなりません。「本気」の取り組みを実現するとは、そういうことです。はっきり言えることは、社会への貢献度が低い企業、言い換えるとお客様への貢献度が低い企業は必要とされないという点です。

これから続く「不況」は悪ではなく、儲けにしか興味がない企業を一掃する時期であり、今は正しく真剣に取り組む企業が選別される転換期であるということを、すべての経営者は認識しなければならないのです。言い換えると、ギスギスした利益主義の会社がなくなる分だけ、「本気」のベンチャーや小企業が多くの国民に支持されるチャンスでもあります。そうした企業の再編成が一巡すれば、日本の企業社会は健全な状態を取り戻せるかもしれません。

さらに、個人が自分らしく生きるために社会を実現しようという動きが本格化してくるでしょう。それは、小規模の企業にも、支持される専門性をみがくことで、地球規模の経営に発展する可能性すらあるということです。どのような専門性をもてばいいのか。それはこれから経営者自身が、いったい自分は何がしたいのか、何で社会に貢献していくのかを問い合わせることから見つけることができるはずなのです。

この経済情勢ですから、今はどこの会社も苦労していると思います。お客様から喜んでいただけなければ必要ないと言われる時代、弊社では製品を作るにあたり近江商人の経営理念に由来する三方良しの理念に加え、収益の一部をボリオワクチンに寄付するようにしました。そうしたところ多くのスポンサーが集まるようになり、また振り込み詐欺防止や防火、地震に対する備えなどを刷り込むことで地域の皆さんにも支持されるようになってきました。このような厳しい時代にあって互いに情報を提供し合い、高め合い、仕事に反映させることが必要だと思っています。

3月の誕生・結婚祝い

森 紀二会員（25日誕生）
古賀正則会員（8日結婚）

おめでとうございます

大野 弘会員（7日結婚）
山下良雄会員（26日結婚）

幹事報告

小池和義社会奉仕委員

地区から<1~4>

1. 「2012年地区協議会の案内」がきています。

日 時：4月17日（火）am10:20点鐘
場 所：大宮ソニックシティ

2. 「次年度地区補助金申請受付のお知らせ」がきています。

申請期間：3月15日～4月30日

3. 埼玉新聞に掲載された当地区復興支援活動記事が寄せられています。

4. 「2011～12年度RI会長賞奨励の書類」が送付されています。

5. 越谷東RCより「創立25周年記念式典開催の案内」がきています。

日 時：5月18日（金）

場 所：越谷コミュニティセンター

6. 埼玉県立越谷特別支援学校より「入学式の案内」がきています。

日 時：4月9日（月）pm1:30開式

場 所：越谷特別支援学校体育館

委員会報告

■報 告

山下良雄前会長

宮古市から台北百城扶輪社へ贈られる感謝状が届きました。

■社会奉仕委員会

菊地貴光委員長

第38回市民まつり準備委員会がありました。<10月21日（日）開催予定>ロータリークラブ、ライオンズクラブ会長の皆様方には寄付金を集めるという目的のもと、財政委員会の委員になっていただいております。それとは別に市民まつり全体の会計の監査をする監事をロータリークラブおよびライオンズクラブから毎回1人ずつ選出しており、今回は当クラブが担当となります。領収書の確認（12月頃）および反省会（2月頃）での監査報告が主な仕事で、その年の幹事が担当することが通例になっていますので、小池次年度幹事にお願い致します。開催に当たり皆様方には何かとご協力をいただくことになりますが、どうぞよろしくお願い致します。

一合同例会直前の打ち合わせ

進行：菊地貴光国際奉仕委員会

会 場：東武ホテルレバント東京

集 合：15日 16:20～16:25頃を

目処に越谷駅上りホーム中ほどに集合

電 車：越谷駅発 16:31中央林間

行き乗車。錦糸町にて下車し3番出口より例会場へ向かう（徒歩3分）

出迎え：17:30 京王プラザホテル（新宿）にて

<仲会長・山崎幹事・菊地国際奉仕委員>

通訳：文教大学留学生1名（シー・ケイホーさん）



<例会・懇親会にお付き合いいただく>

持参品：国旗スタンド、卓上旗、ミニゴング、両クラブの名札、クラブ同士の交換品、国歌CD、仲年度分の会報、台北百城扶輪社会員のプロフィール、クラブメンバー（土産用）、通訳者への心づけ

会場セッティング：卓上旗と名札をテーブルに配置

合同例会プログラム（3階 藤菊）

18:30 点 鐘 司会：太田洋寿SAA

日本国歌・中華民国国歌齊唱

「奉仕の理想」齊唱

18:40 お客様の紹介<仲会長>

両クラブ会長挨拶

宮古市長からの感謝状伝達

プレゼント交換

自己紹介

両クラブ幹事報告

委員会報告・スマイル報告・出席報告

19:00 点 鐘

<同ホテル懇親会場（24階レストラン・バー 簾）へ移動>

懇親会プログラム 司会：菊地貴光社会奉仕委員長

坪井 明社会奉仕委員

19:15 開会の言葉

乾 杯

閉会のことば

■スマイル報告

坪井 明社会奉仕委員

・本日も出席ありがとうございます。15日の台湾クラブ来日ではよろしくお願いします。 仲 文成

・3月11日震災1周年、TVで初めての災害状況もたくさん報道されていました。15日の台北百城RC合同例会を楽しんでおります。 山下良雄

・だんだん陽気が良くなってきましたね。 菊地貴光

・今日もどうぞよろしくお願い致します。 坪井 明
宮坂真志、小池和義、太田洋寿、森 紀二、武藤正雄

小計 9,000円

■出席報告

宮坂真志委員

会員数	出免除	出席数	欠席数	MU	出席率
16名	1名	10名	2名		80%

ガバナー月信第9号より一部抜粋

識字率向上月間に思う

三國 明ガバナー

今日は識字率向上月間です。識字率向上は1986年以来、国際ロータリーの強調事項です。地域の識字水準が、その地域の生活水準に直結するという観点から、この月間に読み書き、計算の出来ない人たちを救援するために、ロータリー地域社会共同体、ロータークトクラブ、インターフラッグクラブ、世界社会奉仕、ロータリーボランティア、その他の既存プログラムを通じて識字率向上に取り組んでいます。（中略）

ユネスコによると、世界で9億人以上の人々は読み書きが出来ません。その三分の二は女性です。成人や子供に向けて、読書のプログラムを企画することや学校に本を寄贈すること、そして地元の図書館を援助することが要請されています。